

オマーン，ワジタイン地域の变形構造の解析

Deformation analysis of Wadi Tayin area of Oman.

山浦 洋平[1], 青島 逸子[2], 釘宮 康郎[3], 溝上 周作[1], 小野寺 久美子[1], 増田 俊明[1]

Yohei Yamaura[1], Itsuko Aoshima[2], Yasuo Kugimiya[1], Shusaku Mizokami[3], Kumiko Onodera[4], Toshiaki Masuda[1]

[1] 静大・理・生地環, [2] 静大院・理工・生地環, [3] 静大・理・環境

[1] Inst. of Geosciences, Shizuoka Univ., [2] Geoscience, Shizuoka Univ., [3] Inst. Geosciences, Shizuoka Univ., [4] Geosciences Sci., Shizuoka Univ

オマーンのワジタイン地域にはメタモルフィックソールが大変よい保存状態で露出している。本ポスターではこの地域の变形構造，特に線構造と剪断センスを求めた結果を報告する。

角閃岩の主成分である角閃石の長軸方向の向きを統計的に処理して鉱物線構造の方向と強さを求めた。その結果鉱物線構造はN75EからN30Eくらいであった。また線構造の強さを示すパラメータ()は変成度が高くなるほど低くなることが確認された。剪断センスについては部分的に見られた回転構造により求めた。剪断センスはS60WからS70Wである。

海洋地殻が比重の小さい大陸地殻の上に乗上げるオブダクション現象はプレートテクトニクス最大の謎の1つである。アラビア半島の先端に位置するオマーンからU.A.E.にかけて世界最大のオマーンオフィオライトが幅100km，長さ400km以上に及び露出しており，オブダクションの研究に最適の地域と考えられている。

オフィオライトが海洋底衝上断層運動により海洋地殻の上を移動していくときにまだ高温だったために，それより下部の岩石に変成作用を与えるというプロセスで海洋堆積物が変成し，メタモルフィックソールと呼ばれる変成岩体が形成される。メタモルフィックソールの岩体はオフィオライトの乗り上げ時のテクトニックな挙動や温度の情報を記憶していると考えられる。

オマーンのワジタイン地域にはメタモルフィックソールが大変よい保存状態で露出している。本ポスターではこの地域の变形構造，特に線構造と剪断センスを求めた結果を報告する。

現地調査において角閃岩の線構造は高変成度になるほど見えにくくなる。薄片で観察しても同様である。そこで角閃岩の主成分である角閃石の長軸方向の向きを統計的に処理して鉱物線構造の方向と強さを求めた。その結果鉱物線構造はN75EからN30Eくらいであった。また線構造の強さを示すパラメータ()は変成度が高くなるほど低くなることが確認された。剪断センスについては部分的に見られた回転構造により求めた。剪断センスはS60WからS70Wである。